

実践事例集の発刊にあたって

各学校多忙の中、本年度は北部地区の先生方に原稿を依頼し、実践事例集が完成いたしました。日頃の実践をまとめられ原稿作成にご協力いただいた先生方に深く感謝申し上げます。この実践事例集が、各校のさらなる充実した授業づくりにご活用いただければ幸いです。

さて、本年度は生活科の新設と時期を同じくした「平成」の時代が終わり、「令和」の時代を迎えることになりました。そして今、新学習指導要領の完全実施が小学校、中学校で迫っております。小学校においては来年度、つまりあと数ヶ月で完全実施となります。そのような中で昨年11月8日に実施されました本県教育研究会生活科・総合的な学習の時間研究部主催の、第21回関東地区小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会・茨城大会は今後の授業づくりに大変参考となるものでした。

茨城大会では大会主題を「子供の未来を拓く生活科・総合的な学習の時間の創造～自主性・自立性を育む「深い学び」を目指して～」とし、午前の部では、ひたちなか市の東石川小学校、長堀小学校での公開授業と研究協議、午後の部では同市内ホテルを会場として課題別分科会や文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 渋谷 一典 先生による記念講演会が実施されました。その全体会の中で発表された基調提案の一節を紹介します。

『新学習指導要領では「社会に開かれた教育課程」が大きく謳われ「よりよい学校教育を通してよりよい社会を創る」という理念を社会と学校が共有し、社会との連携や協働によってこれからの時代に求められる教育の実現を目指すことになる。この過程では知識の「習得」から「活用・探求」というサイクルや、「認識から思考へ」の連鎖と止揚によって主体的・対話的で深い学びを実現していくことが重要になる。こうした教育課程の実現こそはまさに生活科・総合的な学習の時間の創設の神髄であり、その目指す方向性は生活科・総合的な学習の時間の学びそのものである。』

すなわち、各校における生活科・総合的な学習の時間の学びを工夫・改善そして充実させる取組は、生活科・総合的な学習の時間の範囲内の活動や知識・技能の習得に留まらず、他教科における学びの質を向上させ、相互に関連しながら未来の創り手となるために必要な資質・能力の育成にもつながるものと考えられます。

今回の茨城大会では、公開授業での生き生きとした子供たちの学習活動を見たり、県内外から参加された先生方の熱心な研究発表を聞いたりすることができました。また、渋谷先生をはじめ講師の先生方からは、自主性・自立性を育むダイナミックな授業づくりの示唆となる御助言をいただきました。今後求められる学校教育に生活科並びに総合的な学習の時間の意義や価値、そして果たす役割が大きいことを本大会の運営と参加を通してあらためて強く感じました。

令和2年2月

日立市教育研究会生活科・総合的な学習の時間研究部
部長 大江 憲一郎